

おおま

No. 79
岬の光

平成25年11月1日発行

議会だより

子どもたちの未来を!!



高木教頭先生

竹山校長先生

先例地視察
(青森市立荒川中学校)

9月定例議会
主な内容

○平成24年度 歳入歳出諸決算

P 2

○平成25年 第3回定例会

P 3

○2議員が一般質問

P 4~5

○青森市立荒川中学校の先例地視察・編集後記

P 6

町民一人あたりの借金 25万円増

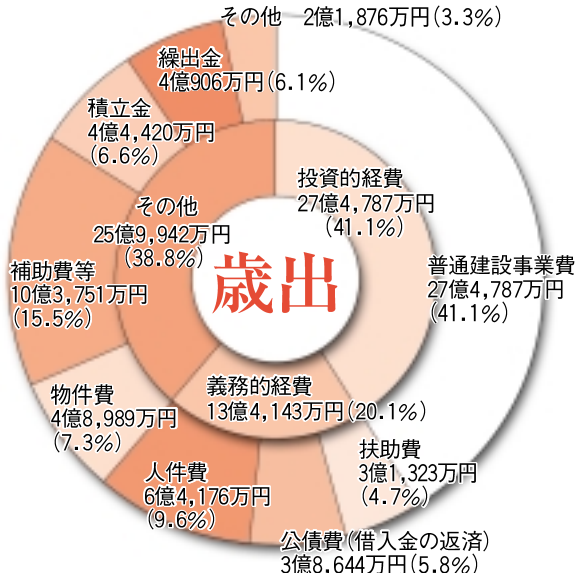
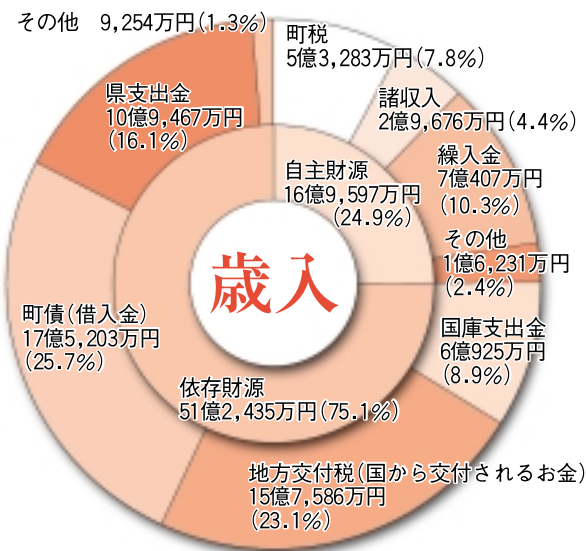


平成24年度地方財政状況調査より

歳入 68億2,032万円

歳出(性質別) 66億8,872万円

平成24年度 歳入・歳出諸決算
一般会計の内訳



借金(町債)・貯金(基金)の状況

【一般会計】

	総額	町民一人あたり	町民一人あたり 対前年(増減)
町の借金(A)	52億4,943万円	86万円(フェリー建造等)	25万円
借金に対する国の援助(B)	45億1,156万円	特定の借金に対しては国から交付税で補てんされます	
実質の借金(A)-(B)	7億3,786万円	12万円	4万円
基金(貯金)	35億8,069万円	59万円	▲1万円

※平成24年度決算の状況(人口:6,051人で計算)

各会計別の予算計上内訳

	当初予算	6月補正	9月補正	専決処分	12月補正	3月補正	専決処分	繰越額	合計
一般会計	63億591万円	▲948万円	1億8,886万円	575万円	2,970万円	▲248万円	1億6,092万円	805万円	66億8,723万円
国民健康保険特別会計	10億977万円				2,496万円	▲439万円			10億3,034万円
海峡保養センター事業等特別会計	1億6,825万円	15万円			▲770万円	397万円			1億6,467万円
後期高齢者医療特別会計	4,401万円					▲22万円			4,379万円
介護保険特別会計	4億4,852万円		218万円		5,814万円	▲180万円			5億704万円
下水道事業特別会計	2億5,995万円	53万円	47万円		▲2,783万円				2億3,312万円

第3回 9月定例会

平成25年第3回定例会を9月6日開会し、9月13日閉会しました。

本会議に提案された報告2件、認定1件、承認2件、議案12件、同意1件はすべて原案のとおり承認、可決、同意しました。

債務負担行為補正

事項	変更前		変更後	
	期間	限度額	期間	限度額
大函丸購入費	平成25年度から平成35年度まで	5億5,500万円	平成25年度から平成35年度まで	5億5,799万円

大函丸購入費
利率確定
1.73%

※平成25年10月1日から平成26年3月31日までの6ヶ月間

町職員 2.5% (5.5%)
教育長 7%
副町長 7%
町長 10%

総額1千万円
給与の減額(月額)

	資金不足比率	経営健全化基準比率
大間町水道事業計	0.0%	20.0%
大間町下水道事業特別会計	0.0%	20.0%
大間町海峡保養センター事業等特別会計	0.0%	20.0%

平成24年度
資金不足比率

	平成24年度	早期健全化基準
実質赤字比率	△5.8%	15.0%
連結実質赤字比率	△13.7%	20.0%
実質公債費比率	13.1%	25.0%
将来負担比率	12.0%	350.0%

平成24年度
健全化判断比率

※△表示は黒字を表す

補正 予算

一般会計

歳入歳出それぞれ2億8975万円を追加し、予算総額43億7148万円とした

歳出の主なもの

- 財政調整基金積立金 2億5千万円を追加
- 公共用施設維持運営基金積立金1366万円を減額
- 中山間地域総合整備事業負担金990万円を追加
- 磯根資源増殖事業基金積立金1千万円を追加
- 奥戸小学校防球ネット設置工事費106万円
- カラスの潤漁船ポンプ用電源設置工事費91万円

国民健康保険特別会計

歳入歳出それぞれ585万円を追加し、予算総額10億2455万円とした

介護保険特別会計

歳入歳出それぞれ42万円を追加し、予算総額5億3603万円とした

下水道事業特別会計

歳出の組替補正であり、一般管理費に3万円を追加し、浄化センター管理費3万円を減額

水道事業会計

収益的収入の総額を1億3887万円とし、収益的支出の総額を1億3795万円とした

人権擁護委員

賛成8 反対0



大間字冷水3番地3
古川一男氏
昭和23年8月21日生

賛成7 反対1



奥戸字奥戸93番地
佐々木真萌氏
昭和26年6月25日生

賛成7 反対1



大間字根田内1番地2
大場弘子氏
昭和29年6月25日生

※前任者、石澤一昭氏、新井田義成氏、大場弘子氏は12月31日をもって任期満了

一般質問



野 崎 信 行 議員

1 大間病院に協議会
を作るべき

町長答弁
院内に接遇委員会や
医療相談窓口がありま
す。協議会は所管事項
ではない。

2 奥戸黒岩から高速
道路を建設せよ

町長答弁
国道279号の国直
轄管理によるバイパス
化、338号の整備促
進の要望中です。

3 大間マグロを世に
知らせた人に感謝状を

町長答弁
今現在考えていない。

4 北海道からの送電
線を誘致せよ

町長答弁
事業者の方向性の中
で実施されるものと認
識している。

5 町の土地にソー
ラー施設を

町長答弁
現時点では考えてい
ない。

6 フィンランド原発
最終処分地の視察を

町長答弁
現時点では考えてい
ない。

7 折戸地区道路を拡
幅せよ

町長答弁
風間浦村の行政区で
す。

8 奥戸に介護支援セ
ンターを建設せよ

町長答弁
介護支援センターの
役割は在宅介護の総合
的な相談に応じる機能
であり、くろまつに設置。
奥戸地区は、今後も奥
戸交流館を活用する。

9 海岸漂着物対策費
の予算は

町長答弁
今定例会の一般会計
補正予算に計上してあ
る。

10 黄砂に含まれる危
険物質を調査せよ

町長答弁
環境省が調査し結果
を公表している。町と
しては、情報に注意し
ながら住民周知する。

11 ものづくり10万
円補助せよ

町長答弁
趣旨を明確にした上
で検討する。

12 地域応援隊の設置
を

町長答弁
地域おこし協力隊の
ことと思うが、県内2
町村が実施しており、
それらの事業成果等を
注視する。

13 東北自然歩道線を
大間崎弁天島に

町長答弁
検討する。

15 RVパーク支援を

町長答弁
現在、その施設設置
の考えはない。

17 オスプレイを誘致
せよ

町長答弁
国土交通省の通達で
原子力施設上空の飛行

を避けるようにとあり、
誘致する考えはない。

19 岬、灯台サミットを

町長答弁
岬サミットはすでに
組織はあるが、大間は
参画していない。本州
四端協議会でサミット
を行い、観光PR等を
している。

20 下北送電線事業を
期成同盟会へ要望せよ

町長答弁
今後、国・県・事業
者の動向を注視する。

21 大間町町歌を設置
せよ

町長答弁
検討する。

22 役場内に案内人設
置を

町長答弁
職員全員がその役割
を担えるように取り組
んでいる。

23 過疎活性化交付金
を大間は応募したのか

町長答弁
定住促進対策等のソ
フト事業が対象であ
り、町で活用できる事
業を検討する。

25 500万円寄附金
をフリー割引へ

町長答弁
航路の活性化に向
け、今後、町の財政を
勘案し幅広く検討する。

26 「奥戸いもっこ」生
産者に助成を

町長答弁
個人ではなく、条件
を付け農業団体等に助
成の調査・検討をする。

31 群馬の大間姉妹都
市の運動に助成金を

町長答弁
群馬県、現みどり市
とは交流しており、今後
どういう事業を実施す
るかを踏まえ検討する。
※全33質問の中から、抽
出して23質問を掲載。

一般質問



岩泉盛利 議員

災害対策ネットワークの

計画策定は

質問

災害いわゆる地震や津波対策、大雨による被害対策など、避難路や町民に対しての情報提供、各地区に対する報道の取り組みは

町長答弁

計画策定の必要性は認識している。災害の種類等によって避難路の確保が行われるため、防災訓練等の反省点等を踏まえ検討する。周知については、各

前向きに検討する。

再質問

材木地区の大雨による災害対策は

町長答弁

応急処置として、ブルーシートと土嚢で対応している。今後については地権者等々も含め検討する。

再質問

大間町全体の防災訓練を何年間に1回は実施せよ

町長答弁

防災訓練については材木の地域からはじめ、その地域の特性も含めて、訓練の内容等を考え進めてきた経験がある。今後は、全町での防災訓練に結びつけていく計画で進めている。

財政シミュレーションの見直しは

質問

大間原発工事の遅れにより、原子力発電所の運転開始時期が不透明な中、固定資産税をあたにした事業計画などの変更、または見通しの見直しをする時期ではないか

町長答弁

現在、計画の見直しを進めています。港湾や漁港、道路整備など町民の生活に密着する、また要望の多い事項については、制度事業等を活用しながら、計画に基づいた中で進めていきます。原子力発電所の運転開始時期が遅れていることについては、その財源を見込んだ町の計画もあるため、制度等、

補助事業等を活用することも含めて、新たな財源を見出し、地域住民の要望に応える努力をします。

再質問

三法交付金の中で、電源立地促進対策交付金72億6775万円を人件費や、町の事業として大間消防署・病院・小中学校・幼稚園・保育所・繁殖育成センターなどに活用してきたが、平成26年度以降はゼロになるというのだが、今後の行政財政の見直しは。

町長答弁

新たな財源確保を探っていく。明確な答えは今できないが、その努力をし、財政運営計画を定めながら、それに向けて実施する。

再質問

過疎債16億円を含めたフェリー建造事業の返済は

町長答弁

過疎債の借入額は15億4250万円でありますが、鉄道運輸機構との共同建造部分を含めると、年間1億1000万円となり、12年間返済することとなります。

なお、過疎債の借入の元利償還のうち70%は交付税に算入されま

返済予定額(利息込)

・ 過疎債	16億121万円
・ 鉄道運輸機構	： 船舶使用料
5億5799万円	
※過疎債の70%	
11億2084万円	
を差し引くと	
実質的な返済予定額	10億3836万円

平成26年度より 奥戸小の一部が複式学級に!!

複式学級移行 年次表 (想定)

奥戸小学校						備考	
時期・児童数	児童数						
平成26年度 60名	1年生	8名	2年生	6名	3年生	10名	2クラス⇒1クラス 複式学級の設定
	4年生	11名	5年生	9名	6年生	10名	
	特別支援		3名	3名			
平成27年度 53名	1年生	7名	2年生	8名	3年生	6名	2クラス⇒1クラス 複式学級の設定
	4年生	10名	5年生	11名	6年生	9名	
	特別支援		1名	1名			
平成28年度 47名	1年生	5名	2年生	7名	3年生	8名	4クラス⇒2クラス 複式学級の設定
	4年生	6名	5年生	10名	6年生	11名	
	特別支援		0	0			
平成29年度 43名	1年生	7名	2年生	5名	3年生	7名	4クラス⇒2クラス 複式学級の設定
	4年生	8名	5年生	6名	6年生	10名	
	特別支援		0	0			
平成30年度 42名	1年生	9名	2年生	7名	3年生	5名	4クラス⇒2クラス 複式学級の設定
	4年生	7名	5年生	8名	6年生	6名	
	特別支援		0	0			

青森県が定める「平成25年度学級編成に係る基準」に、1学年の児童を含まない2個学年複式学級の基準は、合計16人になった場合と定められている。左記の表を見てもらえば解るように、26年度奥戸小学校の2学年と3学年の合計人数は16人。2個学年複式学級に

該当する。尚且つ、26年度以後、28年度からは4クラスが2クラスの複式学級が発生することになる。平成17年、財政的問題及び施設の老朽化、将来的な児童生徒の教育環境の視点から、統合又は、小中併設の議論となり、住民説明会を実施したが、理解を

得るに至らなかった経緯があり、議会でも大変な問題になった記憶がある。だが、10年後には少子化が進み、複式学級が開始されるとは、その時点で予想もしていなかった。急激に進む幼児の減少に対し行政は「大間町奥戸地域学校教育検討委員会」設置要綱を制定し、平成23年6月

から11月まで4回の委員会を開催、翌年8月には、教育委員会による複式学級に係る先例地視察（蛇浦小学校）12月に議会全員協議会で、学校教育改革計画策定（案）検討状況（奥戸地域）の報告があった。

以後、奥戸地域で25年2月から未就学児の保護者・小中学校の保護者・奥戸地区住民対象者等との懇談会を4回開催してきたという。議会側もこの問題に

対し、10月9日青森市役所・高田中学校と統合した荒川中学校へ先例地視察研修を実施した。市教育委員会と荒川中が連携し、子供たちが統合で発生しうる諸問題を細部にわたり検討し、1年掛けて取り組んできた事例を聞き、大変感銘を受けた。子供たちにとって、最も良い学校の環境とは、「子供」を中心に考えてみるべきだろう。

(記)加藤

編集後記

今年も、異常なほどの猛暑と雷、豪雨、竜巻など今までの日本では考えられない異常気象が続いている。これも地球温暖化の影響なのだろうか。

異常気象といえば、秋以降大型の台風がいくつかで日本に上陸、甚大な被害を与えている。ここ大間町は今、マグロ・ブリ・イカ漁が最盛期を迎えている。この時期の台風接近には、情報収集にため、無理な操業を避け、海難事故のないよう安全操業に徹したいものだ。(記)竹内

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

千代谷 誠

委員

竹内 弘

野崎 信

小野 和

宮野 昭

一美